



【2017-03-01】

遊道楽歩（雑感）

書を友に、酒を楽しみ、
人生を味わう

今週の雑感

『冬の田んぼと白鳥』

長野修二

冬の田んぼと白鳥

私が住むこの地の近隣に越冬をするために白鳥がくる田んぼがあります。白鳥の飛来地としては新潟県の瓢湖などが有名ですが、この地の近隣に白鳥がきていると知ったのは、つい最近のことでした。

今年は場所を探すだけでも大変でしたが、田んぼの中で突然多くの白鳥たちの群れに出くわしたので本当に驚きました。

見た目には30～40羽ほどいたでしょうか、田んぼの中で悠々と食事をしているようでした。

飛来地から少し離れた場所とはいえ、他に観察する人がいない田んぼの中にいましたので、ゆっくりと白鳥たちを眺めることができました。



白鳥たちの飛来地は田んぼばかりのところであり、とくに池や沼がないため田んぼの一角に水を引き入れて簡易な水場を作っている程度でしょうか。

とても不思議な光景が広がっています。



白鳥は、一般的には川や湖沼などで目にすることが多いものですが、もっとも少し離れた場所には沼や河川がありますが、わざわざ田んぼに飛来してくるのですから、よほど白鳥たちにとって住み心地がよい環境がそろっているのでしょう。

データによれば、[国内における白鳥の飛来地](#)の中で新潟県の瓢湖（5000羽）が飛来数が多く、この地でも約1000羽くらいが飛来するそうですから、さらに驚きです。

ネットなどで少々歴史を調べてみると平成4年12月たまたま農業用排水工事をしているところに大雨が重なり、偶然田んぼに水が溜まったことで白鳥にとっては恰好のエサ場となったようです。

その年は6羽の白鳥たちが舞い降りてくれたとのこと。

そこからボランティアの方たちの努力で、年によって変動はありますが、約1000羽近くの白鳥が越冬してくれているようです。

最初に出くわした日は日中だったこともあり、田んぼの中で餌をついばんでいる白鳥たちでしたが、残念ながら飛翔している姿は2～3羽見かけた程度でしょうか。

とにかく突然目の前に現れた白鳥たちに会えたことで興味がわいたのは当然です。

そこで少し調べてみると、白鳥たちの渡りは壮大なものだということがわかり新たな驚きがありました。

この地の白鳥の種類は「[コハクチョウ](#)」が多いようですが、なかには「[オオハクチョウ](#)」もまじているようです。

「コハクチョウ」はおよそ4000kmほどの渡りをおこない、「オオハクチョウ」は3000kmほどだそうです。そのルートや繁殖地はシベリアの[極北の地コリマ川周辺](#)（コハクチョウ）にあるようで、多くの困難を伴いながらもこの地までやってきているということは、大変感動的なものです。

私ならずとも、どのように飛んでくるのか、という疑問がわいてくるのかもわかりません。

しかも、鳥の中では比較的大きな個体ですが、見るかぎりではあのような優雅な姿のどこに4000kmを飛翔してくるエネルギーがあるのか、と不思議でなりません。

今年、二度目にいったときには3羽が簡易水場にいるだけで、ほかの白鳥たちを目にすることはできませんでした。

近くの小学校が発信している情報によれば、2/17には約900羽ほどいたようですが、2/20にはほとんどいなくなっているようですし、2/22にはすべての白鳥たちの姿はなく、この地を離れて北帰行を開始したようです。

私が訪れた2回目は2/19で、ちょうどこのようなときで北帰行直後だったのでしょう。

2/17には、関東で春一番が吹きましたのでこの機会を得て北への旅立ちをはじめたようです。

三度目の出会いは今年の11月までお預けになりましたが、出会えた白鳥たちが無事子育てをし、暮れにやってきて元気な姿を見ることができるよう楽しみがまたひとつ増えました。

[北帰行のルート](#)に目をやり、さらにシベリアの地図に目を凝らし、彼らの元気な姿を想像しながら、白鳥たちに負けないように生きていきたいものです。



今更ながら豊かな大地のもとで生活ができ、極北の地からやってくる白鳥たちにも出会えるこの地に改めて感謝しながら、白鳥たちの到着を待ちたいものです。